

2010年度 府障教課別（人事課・企画課・施設課）交渉 「分校」への養護教諭複数配置、新規採用数の大幅増、 施設改善など、各分会の切実な要求実現を要求！

府障教は1月25日、31日の2日間にわたり、府教委と課別交渉をおこないました。課別交渉は各分会の要求に基づき府教委と交渉をおこないました。25日の交渉は、教職員人事課、施設課、教職員企画課と、31日は支援教育課、保健体育課と交渉をおこないました。今回は25日の交渉についてお知らせします。

1. 直轄強制人事撤回について

執行部より、本人ヒアリングで配慮すべきことから、障害児教育の専門性等について府教委の見解をいただきました。

府教委は、通勤・介護・健康・保育の要件について、校長通じて十分に聴取して人事を考えて行くとしました。また、本人ヒアリングは全教職員対象であり、「本人ヒアリングが実施されていないことはあってはならない」としました。障害児教育における専門性については、「重要である」とするのみで、府立高校から障害児学校への異動についても、「校長とのヒアリングを通じて、配置を考えて行きたい」とし、具体的にはなんら回答できませんでした。

また、各校の人事異動数について、校長に対して「あなたの学校は何人が異動と言うことは言っていない」としました。

2. 四條畷校の教職員定数など

交野支援学校四條畷校分会が教職員定数の改善を求めました。

府教委は四條畷校について、高等部は交野支援学校の高等部とあわせて国に定数要望し、中学部はひとつの学校として定数要望をしているとしました。ひとつの学校でありながら、教職員定数の算出が中学部と高等部で違うという矛盾が明らかになりました。また、養護教諭について府障教は、四條畷校は標準法では複数配置になること、府内のすべての「分校」に養護教諭の複数配置を強く要望しました。

3. 新規採用の大幅増など

寝屋川支援学校分会より、55名の学部教員のうち約半数が新転任者および臨時的任用である実態を訴え改善を求めました。府教委は、講師が多いことについて「課題であると認識し、可能な限り新規採用をしたい」としました。府障教が、改善のための具体的見通しや計画を強く求めましたが、府教委は答弁できませんでした。

4. 堺支援学校の職員室・更衣室の拡張など

堺支援学校分会が職員室の写真を示し、改善を求めました。

府教委は、狭い中、苦しい環境の中で頑張っている先生方には申し訳ないと思いました。しかし、職員室の拡張については、約束ができないとしました。また、休養室への空調設備について、「今後の課題として課長以下認識している」としましたが、校舎の耐震化が優先課題であり、対応できていないとしました。

5. 中津支援学校の雨漏りの改修など

中津支援学校分会より多目的ホールの雨漏りと電動ステージの改修を求めました。

府教委は、電動ステージについて部分改修で対応するとしました。また、今年度中に実施予定であったができなくなったことを明らかにし、できるだけ早急に対応したいとしました。雨漏りは、学校からも聞いており、必要があれば状況を見に行くとし、予算が取れるときに対応したいとしました。府障教は、「施設の老朽化等で教育活動に支障が生じてはならない」との課長答弁から、早急に対応することを強く求めました。

6. 交野支援学校のトイレ整備

交野支援学校分会より、学校施設の規模をこえて児童生徒が増加し、そのもとで生じているトイレ指導の困難について訴え、改善を求めました。

府教委は、トイレ整備について福祉整備予算で、来年度実施設計に向け予算折衝しているとしました。また、工事内容についても、学校ともよく相談して対応したいとしました。

7. 時間外労働・恒常的残業をなくすための対策

執行部が、課長回答である「府教委内プロジェクトチーム（以下、PT）の論議のピッチを上げないといけない」の具体化を求めました。

府教委は、府議会が始まるまでに教職員企画課で案をとりまとめたこととしました。しかし、来年度のPTでの論議の計画は回答できず、年度初めには開催したいとするにとどまりました。業務改善や時間外労働の解消など、府障教の意見を聞いた上ですすめる事について府教委は、PTの議題は部活動に限らず広げてやっていきたい。府障教の意見を聞いてすすめたいとしました。